

日本経済の更なる発展には 外需を取り込む必要がある

「この地域は最も元気があり、さらなる発展のポテンシャルも高い」。波多野淳彦・中部経済産業局長は愛知県を中心とする地域の活力と航空機産業などによる伸びる潜在力を評価する。アベノミクス効果、デフレ脱却の先陣を切れるのか。当地域の可能性と課題などを聞いた。

(聞き手／中部財界フォーラム社塚本隆代表取締役)

——東海地域の経済動向を。

波多野 中部地域の景気は良く、日本のGDPの約一割、製造業の二割を占めています。日本経済の現状は一進一退が続けているが、この地域は、緩やかな右肩上がりで推移しています。他地域と比べて非常に活力がある。自動車産業が底堅く、航空機産業が右肩上がりなのが元気の源ですね。

——当地域の産業の将来像は。

業、航空機産業、ヘルスケア産業、環境産業です。自動車産業が当地域の基盤であり、部品を含めた生産額は九兆円。他の産業での代替はきかないが、これから伸びてくる新しい産業が他の三分野。改定のポイントでは全体の産業を活性化

波多野 成長戦略の東海版「OKAI VISION(トウカイビジョン)」を策定して、進めています。二年が経過し、関係者の協議を経てこのほど改訂されました。私どもが事務局を務め、東海産業競争力協議会がまとめたもので、四分野を戦略産業として強化を目指しています。

——改定のポイントを。

波多野 四分野は自動車関連産

するための「二つのブースト機能」を新たに盛り込んだことです。一つはIT、ロボットの活用で従来産業をさらに発展させる。もう一つは国際化がこの地域では弱い

——この二年間の動きは。

波多野 この二年間でエポックメイキングだったことは、自動車

では昨年二月にFCV(燃料電池自動車)、MIRAIの本格生産が開始。昨年十一月にはMRJが初飛行。MRJは日本の民間航空機としては五年ぶりの飛行でした。この二つが大きな動きでしたね。FCVは以前に比べて値段が

下がり、国などの助成を受ければ五〇〇万円超で入手可能に。生産能力が上がれば、普及が加速するはず。MRJの実用化は二〇一八年半ば。受注は現在、四二七機ですが、本格的な販売段階でさらに伸びるでしょう。燃費効率など国際競争にも勝てますよ。

——当地域の国際化戦略を進める上での課題は。

波多野 中堅・中小企業の海外



波多野 淳彦 (はたの あつひこ)

1962年生まれ。85年、東京大学法学部卒業、通商産業省(現経済産業省)入省。2003年、製造産業局宇宙産業室長、05年大臣官房政策評価広報課長。08年、在中国日本大使館公使。12年、貿易経済協力局審議官などを歴任。15年から現職。

展開を支援する「新輸出大国コンソーシアム」を経済産業省が進めています。輸出、投資を通して外国で稼ごうというものです。次に、海外からのお客さんを増やそうというもの。名古屋圏はインバウンドが弱いので、お客さんを素通りさせずに、しっかりとつかむことが重要です。インフラ整備も必要で、中部国際空港の第二滑走路や、大型の国際展示場もほしい。東京、大阪に比べて留学生が少ないのも特徴的。こういったことをすべて

やって、大阪を超える国際都市にしたいですね。

——名古屋を通過点にせず、滞留者を増やすには。

波多野 滞在してもらったための観光資源を整備していくことが課題です。今は、本丸御殿の第二期工事が完了した名古屋城だけが多くの人を集めている。熱田神宮は由緒ある立派な施設で、明治神宮、サミットで話題になった伊勢神宮同様、外国人がもつと訪れてもいい。そのほかに、商店街なども整

備を進めれば集客ができます。名古屋地域では外国語表示の整備が遅れていますね。名古屋駅は、私も当初、よく迷ったが、日本人で迷うのだから、もう少し外国人が理解しやすいように整備した方がいい。行き先の表示には、英語を併記する必要があるし、観光施設の解説には、英語に加え中国語などの言語での対応が必要です。そうした整備を進めていけば、インバウンドに大きな可能性があると思います。

——東海地域の新産業創出のポイント。

波多野 日本の経済成長は1%前後、世界の経済成長は平均3%。日本の経済成長をさらに高めるためには、外需を取り込むしかない。方策は四つ。第一は、この地域で一番得意なモノづくり。立派な物をつくれれば外国へ輸出できる。第二は、インバウンドの獲得。外国人観光客を多く獲得し、様々な物を買ってもらう。第三は、海外投資。平均3%で成長する外国に投資をし、リターンを得る。第四は、外国で稼いでくる。若い人には、

いずれかの外国語をマスターして外国で稼ぐことにもチャレンジしてもらいたい。輸出だけでなく、これからはいろんな方法で稼ぐことが大事です。

——貴局の今後果たす役割を。

波多野 基本的には「TOKA I VISION」を着実に推進することです。MRJの出荷が始まれば、航空機産業は急激に拡大します。そのために必要となる部品を製造する中小部品産業への支援が重点になると思います。この地域の航空機産業は現在、八五〇〇億円規模ですが、年一〇〇〇億円程度増えており、大きな伸びが期待できますからね。

——若手経営者の育成支援は。

波多野 創業・ベンチャー支援などいろいろあります。若い人向けのメッセージとしては、是非、世界を回って新しいビジネスのネタを探ってきてくださいということとです。新しいビジネスの創設は、民間経営者にしかできないこととで、若い世代に期待したいですね。

——ありがとうございました。